

別紙

1 重度脳性まひ者等全身性障害者用カリキュラム

	教科名	時間数	目的(学習の目標)	内 容	講義担当職種例
講義	ホームヘルプサービスに関する知識				ホームヘルパー 介護福祉士
	(ア) ホームヘルプサービス概論	2	ホームヘルプサービスの役割と業務を理解する。	1. ホームヘルプサービスの社会的役割 2. ホームヘルプサービスの制度と現状 3. ホームヘルプサービス業務の基本 4. 関連機関との連携	
	(イ) ホームヘルパーの職業倫理	1	ホームヘルプサービスに従事する際の職業倫理について理解する。	1. 福祉業務従事者としての倫理 2. ホームヘルプサービスにおいてとるべき基本態度	
	移動支援サービス概論・基礎知識	1	移動支援の制度と移動支援に従事する者の業務を理解する。	1. 移動支援の制度について 2. 移動支援に従事する者(ガイドヘルパー)の業務	障害者行政担当者 ガイドヘルパー
	障害者(児)福祉の制度とサービス	2	障害者(児)福祉の制度とサービスの種類、内容、役割を理解する。	1. 障害者福祉の背景と動向 2. 障害者福祉の制度とサービス	障害者行政担当者 身体障害者福祉司 社会福祉士
	障害者(児)の心理	1	障害者(児)の心理に対する理解を深め、心理的援助のあり方について把握する。	1. 障害者の心理と人間関係 2. 肢体不自由者の心理的特徴	心理判定員 臨床心理士
	重度脳性まひ者等全身性障害者を介助する上での基礎知識				
(ア) 重度肢体不自由者(児)における障害の理解	1	業務において直面する頻度の高い障害・疾病を医学的、実践的視点で理解するとともに、介護に必要な状態像を把握する。	1. 肢体不自由者(児)の原因疾患(脳性まひ、脳血管障害、頸髄損傷など)及び症状の理解 2. 肢体不自由者(児)の社会参加 3. 移動介助の際の留意点	医師、 保健師、 生活指導員、 介護職員、 理学療法士 作業療法士	

改正前

別紙

1 重度脳性まひ者等全身性障がい者用カリキュラム

	教科名	時間数	目的(学習の目標)	内 容	講義担当職種例
講義	ホームヘルプサービスに関する知識				ホームヘルパー 介護福祉士
	(ア) ホームヘルプサービス概論	2	ホームヘルプサービスの役割と業務を理解する。	1. ホームヘルプサービスの社会的役割 2. ホームヘルプサービスの制度と現状 3. ホームヘルプサービス業務の基本 4. 関連機関との連携	
	(イ) ホームヘルパーの職業倫理	1	ホームヘルプサービスに従事する際の職業倫理について理解する。	1. 福祉業務従事者としての倫理 2. ホームヘルプサービスにおいてとるべき基本態度	
	移動支援サービス概論・基礎知識	1	移動支援の制度と移動支援に従事する者の業務を理解する。	1. 移動支援の制度について 2. 移動支援に従事する者(ガイドヘルパー)の業務	障がい者行政担当者 ガイドヘルパー
	障がい者(児)福祉の制度とサービス	2	障がい者(児)福祉の制度とサービスの種類、内容、役割を理解する。	1. 障がい者福祉の背景と動向 2. 障がい者福祉の制度とサービス	障がい者行政担当者 身体障がい者福祉司 社会福祉士
	障がい者(児)の心理	1	障がい者(児)の心理に対する理解を深め、心理的援助のあり方について把握する。	1. 障がい者の心理と人間関係 2. 肢体不自由者の心理的特徴	心理判定員 臨床心理士
	重度脳性まひ者等全身性障がい者を介助する上での基礎知識				
(ア) 重度肢体不自由者(児)における障がいの理解	1	業務において直面する頻度の高い障がい・疾病を医学的、実践的視点で理解するとともに、介護に必要な状態像を把握する。	1. 肢体不自由者(児)の原因疾患(脳性まひ、脳血管障がい、頸髄損傷など)及び症状の理解 2. 肢体不自由者(児)の社会参加 3. 移動介助の際の留意点	医師、 保健師、 生活指導員、 介護職員、 理学療法士 作業療法士	

改正後

福岡県移動介護従業者養成研修障がい別カリキュラム「新旧対照表

改正前

	教科名	時間数	目的（学習の目標）	内 容	講義担当職種例
講義の続き	(イ) 介助に係わる車いす及び装具等の理解	1	移動介助に必要な車いすや装具等について知識を深め、それらの機能を把握する。	1. 車いすの構造と機能 2. 電動車いすの構造と機能 3. 重度肢体不自由者用車いすの構造と機能 4. 装具や助具等の機能	
	移動介助にあたっての一般的注意				
	(ア) 姿勢保持について	1	良好な姿勢保持の必要性を理解するとともに、その方法を習得する。	1. 良好な姿勢の必要性 2. 良好な姿勢保持の方法 3. 姿勢保持の留意点	ガイドヘルパー 理学療法士 作業療法士
	(イ) コミュニケーションについて	1	言語障 <del>害</del> についての理解を深め、言語障 <del>害</del> のある人への接し方を習得する。	1. 言語障 <del>害</del> の種類と特徴 2. 言語障 <del>害</del> のある人への接し方	医師 言語療法士
(ウ) 事故防止に関する心がけと対策	1	事故防止のための方法や事故が起きた時の対応方法を習得する。	1. 事故防止のための移動の留意点 2. 事故時の対応 3. 安全な食事介助 4. 介助者自身のからだの保護	ガイドヘルパー 保健師 救命救急士（2.）	
実習講義	移動介護の方法	3			
	(ア) 抱きかかえ方及び移乗の方法		車いすへの移乗に際しての抱きかかえ方や移乗の方法を習得する。	1. 床と車いすの間の移乗 2. ベットと車いす間の移乗 3. 2人の介助者で行う場合	ガイドヘルパー 理学療法士 作業療法士
	(イ) 車いすの移動介助		車いすでの移動を介助する場合の車いすの取り扱い方や平地、階段での移動方法などを修得する。	1. 車いすの取り扱い方 2. 車いす移動介助にける注意（雨の日） 3. 平地での移動 4. 階段における移動 5. エレベーター、エスカレーターの利用 6. 乗り物を利用する場合の注意 7. 歩行移動介助方法の留意点	保健師 生活指導員 介護職員

改正後

	教科名	時間数	目的（学習の目標）	内 容	講義担当職種例
講義の続き	(イ) 介助に係わる車いす及び装具等の理解	1	移動介助に必要な車いすや装具等について知識を深め、それらの機能を把握する。	1. 車いすの構造と機能 2. 電動車いすの構造と機能 3. 重度肢体不自由者用車いすの構造と機能 4. 装具や助具等の機能	
	移動介助にあたっての一般的注意				
	(ア) 姿勢保持について	1	良好な姿勢保持の必要性を理解するとともに、その方法を習得する。	1. 良好な姿勢の必要性 2. 良好な姿勢保持の方法 3. 姿勢保持の留意点	ガイドヘルパー 理学療法士 作業療法士
	(イ) コミュニケーションについて	1	言語障 <del>害</del> についての理解を深め、言語障 <del>害</del> のある人への接し方を習得する。	1. 言語障 <del>害</del> の種類と特徴 2. 言語障 <del>害</del> のある人への接し方	医師 言語療法士
(ウ) 事故防止に関する心がけと対策	1	事故防止のための方法や事故が起きた時の対応方法を習得する。	1. 事故防止のための移動の留意点 2. 事故時の対応 3. 安全な食事介助 4. 介助者自身のからだの保護	ガイドヘルパー 保健師 救命救急士（2.）	
実習講義	移動介護の方法	3			
	(ア) 抱きかかえ方及び移乗の方法		車いすへの移乗に際しての抱きかかえ方や移乗の方法を習得する。	1. 床と車いすの間の移乗 2. ベットと車いす間の移乗 3. 2人の介助者で行う場合	ガイドヘルパー 理学療法士 作業療法士
	(イ) 車いすの移動介助		車いすでの移動を介助する場合の車いすの取り扱い方や平地、階段での移動方法などを修得する。	1. 車いすの取り扱い方 2. 車いす移動介助にける注意（雨の日） 3. 平地での移動 4. 階段における移動 5. エレベーター、エスカレーターの利用 6. 乗り物を利用する場合の注意 7. 歩行移動介助方法の留意点	保健師 生活指導員 介護職員

改正前

教科名	時間数	目的（学習の目標）	内 容	講義担当職種例
生活行為の介助	1	外出時に排泄、食事、衣類の着脱を行う際に安全な介助方法を修得する。	1. 食事の介助方法 2. 衣服の着脱の介助方法 3. 排泄の介助方法	ガイドヘルパー 保健師 理学療法士 作業療法士
計	16			

(注)	次の科目及び時間は、必ずしも履修を要しない。			
1	ホームヘルプサービス概論	2時間		
2	ホームヘルパーの職業倫理	1時間		
3	障 <del>害</del> 者（児）福祉制度とサービス	2時間		
4	障 <del>害</del> 者（児）の心理	1時間		

改正後

教科名	時間数	目的（学習の目標）	内 容	講義担当職種例
生活行為の介助	1	外出時に排泄、食事、衣類の着脱を行う際に安全な介助方法を修得する。	1. 食事の介助方法 2. 衣服の着脱の介助方法 3. 排泄の介助方法	ガイドヘルパー 保健師 理学療法士 作業療法士
計	16			

(注)	次の科目及び時間は、必ずしも履修を要しない。			
1	ホームヘルプサービス概論	2時間		
2	ホームヘルパーの職業倫理	1時間		
3	障 <del>害</del> <u>が</u> い者（児）福祉制度とサービス	2時間		
4	障 <del>害</del> <u>が</u> い者（児）の心理	1時間		

改正前

2 知的障害者用カリキュラム					
	教科名	時間数	目的（学習の目標）	内 容	講義担当職種例
講 義	ホームヘルプサービスに関する知識				ホームヘルパー 介護福祉士
	(ア) ホームヘルプサービス概論	2	ホームヘルプサービスの役割と業務を理解する。	1. ホームヘルプサービスの社会的役割 2. ホームヘルプサービスの制度と現状 3. ホームヘルプサービス業務の基本 4. 関連機関との連携	
	(イ) ホームヘルパーの職業倫理	1	ホームヘルプサービスに従事する際の職業倫理について理解する。	1. 福祉業務従事者としての倫理 2. ホームヘルプサービスにおいてとるべき基本態度	
	移動支援サービス概論・基礎知識	1	移動支援の制度と移動支援に従事する者の業務を理解する。	1. 移動支援の制度について 2. 移動支援に従事する者（ガイドヘルパー）の業務	障害者行政担当者 ガイドヘルパー
	障害者（児）福祉の制度とサービス	2	障害者（児）福祉の制度とサービスの種類、内容、役割を理解する。	1. 障害者福祉の背景と動向 2. 障害者福祉の制度とサービス	障害者行政担当 身体障害者福祉司 社会福祉士
知的障害者の疾病、障害等に関する講義	4	知的障害の原因（自閉症、ダウン症、脳性まひ、てんかんなど）及び症状の理解。		医師・保健師・ 看護師 相当な知識と経験を有する障害者（児）施設の生活支援員・介護職員 大学等において当該科目の内容を含む教科を担当する教員等	
基礎的な移動の介護に係る技術に関する講義	2		・知的障害者への接し方 ・知的障害者の社会参加 ・移動介護の留意点	相当な知識と経験を有する居宅介護従業者・訪問介護員・移動介護従業者 大学等において当該科目の内容を含む教科を担当する教員等	

改正後

2 知的障がい者用カリキュラム					
	教科名	時間数	目的（学習の目標）	内 容	講義担当職種例
講 義	ホームヘルプサービスに関する知識				ホームヘルパー 介護福祉士
	(ア) ホームヘルプサービス概論	2	ホームヘルプサービスの役割と業務を理解する。	1. ホームヘルプサービスの社会的役割 2. ホームヘルプサービスの制度と現状 3. ホームヘルプサービス業務の基本 4. 関連機関との連携	
	(イ) ホームヘルパーの職業倫理	1	ホームヘルプサービスに従事する際の職業倫理について理解する。	1. 福祉業務従事者としての倫理 2. ホームヘルプサービスにおいてとるべき基本態度	
	移動支援サービス概論・基礎知識	1	移動支援の制度と移動支援に従事する者の業務を理解する。	1. 移動支援の制度について 2. 移動支援に従事する者（ガイドヘルパー）の業務	障がい者行政担当者 ガイドヘルパー
	障がい者（児）福祉の制度とサービス	2	障がい者（児）福祉の制度とサービスの種類、内容、役割を理解する。	1. 障がい者福祉の背景と動向 2. 障がい者福祉の制度とサービス	障がい者行政担当 身体障がい者福祉司 社会福祉士
知的障がい者の疾病、障がい等に関する講義	4	知的障がいの原因（自閉症、ダウン症、脳性まひ、てんかんなど）及び症状の理解。		医師・保健師・ 看護師 相当な知識と経験を有する障がい者（児）施設の生活支援員・介護職員 大学等において当該科目の内容を含む教科を担当する教員等	
基礎的な移動の介護に係る技術に関する講義	2		・知的障がい者への接し方 ・知的障がい者の社会参加 ・移動介護の留意点	相当な知識と経験を有する居宅介護従業者・訪問介護員・移動介護従業者 大学等において当該科目の内容を含む教科を担当する教員等	

改正前

	教科名	時間数	目的（学習の目標）	内 容	講義担当職種例
講 義	障害者の心理に関する講義	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者の心理と人間関係</li> <li>・知的障害者の心理的特徴</li> </ul>	臨床心理士
					心理判定員
					社会福祉士
					介護福祉士
					保健師
					障害者(児)施設の施設長
					相当な知識と経験を有する 居宅介護従業者・訪問介護 員
					大学等において当該科目 の内容を含む教科を担当す る教員等
演 習	移動の介護に係る技術に 関する演習	6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動介護の基本技術</li> <li>屋外歩行の心がけ</li> <li>エスカレーターを上げる方法</li> <li>エスカレーターを下る方法</li> <li>自動車に乗り込む方法</li> <li>自動車から降りる方法</li> <li>駅の改札</li> <li>電車に乗る方法</li> <li>電車から降りる方法</li> <li>バスに乗る方法</li> <li>バスから降りる方法</li> <li>・コミュニケーションについて</li> <li>行動障害への対応</li> <li>本人の意思確認</li> </ul>	相当な知識と経験を有する 居宅介護従業者・訪問介護 員・移動介護従業者・障害 者(児)施設生活支援員・介 護職員
					大学等において当該科目 の内容を含む教科を担当す る教員等
(注) 次の科目及び時間は、必ずしも履修を要しない。					
	1 ホームヘルプサービス概論	2時間			
	2 ホームヘルパーの職業倫理	1時間			
	3 障害者(児)福祉の制度とサービス	2時間			

改正後

	教科名	時間数	目的（学習の目標）	内 容	講義担当職種例
講 義	障害者の心理に関する講義	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者の心理と人間関係</li> <li>・知的障害者の心理的特徴</li> </ul>	臨床心理士
					心理判定員
					社会福祉士
					介護福祉士
					保健師
					障害者(児)施設の施設長
					相当な知識と経験を有する 居宅介護従業者・訪問介護 員
					大学等において当該科目 の内容を含む教科を担当す る教員等
演 習	移動の介護に係る技術に 関する演習	6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動介護の基本技術</li> <li>屋外歩行の心がけ</li> <li>エスカレーターを上げる方法</li> <li>エスカレーターを下る方法</li> <li>自動車に乗り込む方法</li> <li>自動車から降りる方法</li> <li>駅の改札</li> <li>電車に乗る方法</li> <li>電車から降りる方法</li> <li>バスに乗る方法</li> <li>バスから降りる方法</li> <li>・コミュニケーションについて</li> <li>行動障害への対応</li> <li>本人の意思確認</li> </ul>	相当な知識と経験を有する 居宅介護従業者・訪問介護 員・移動介護従業者・障害 者(児)施設生活支援員・介 護職員
					大学等において当該科目 の内容を含む教科を担当す る教員等
(注) 次の科目及び時間は、必ずしも履修を要しない。					
	1 ホームヘルプサービス概論	2時間			
	2 ホームヘルパーの職業倫理	1時間			
	3 障害者(児)福祉の制度とサービス	2時間			